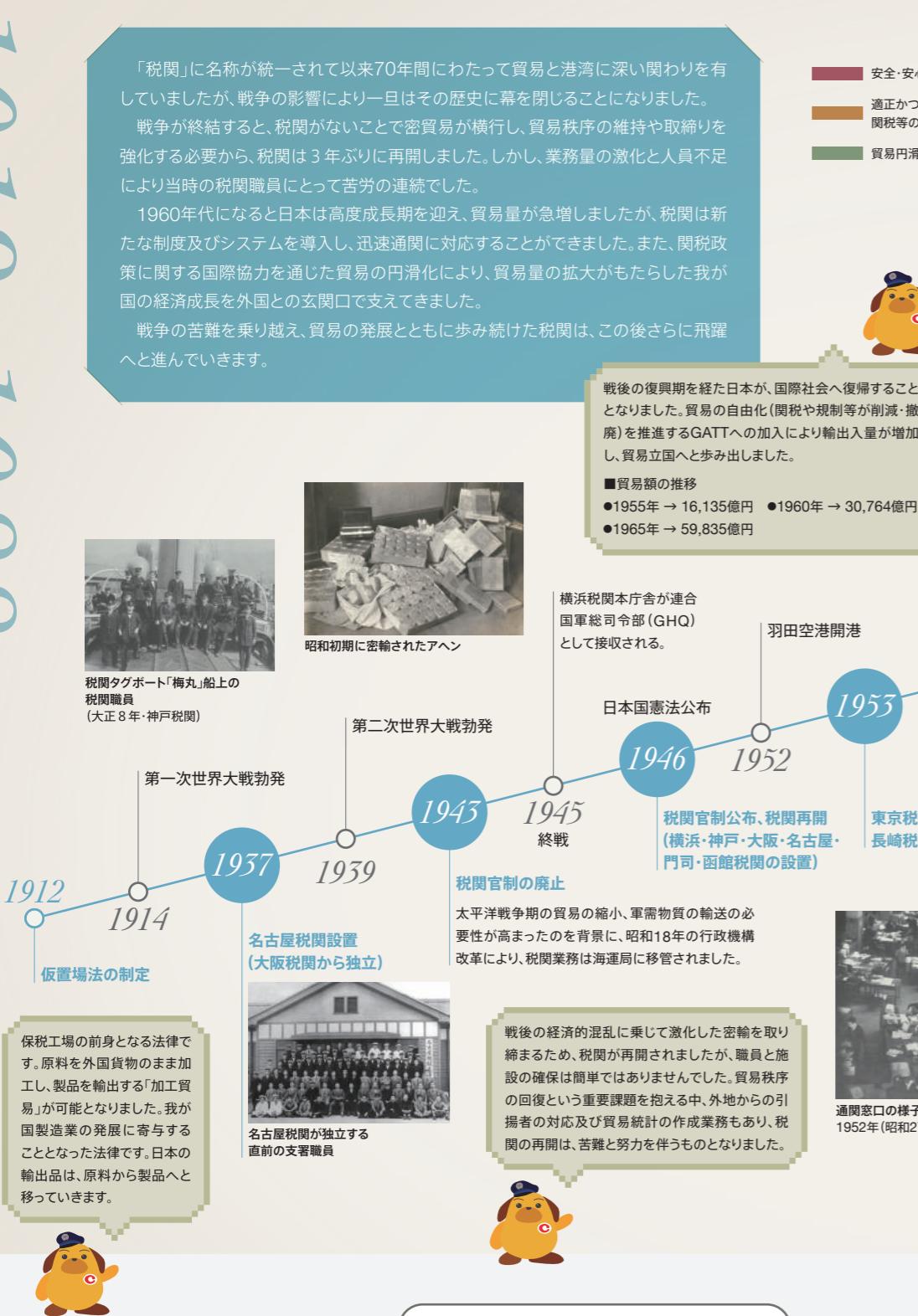


1912-1988  
[大正・昭和]



### 「税」と「関」=二つの顔を持つ機関



輸入品に税を課す徴税機関

税關においては、海外から輸入される貨物について  
関稅及び消費稅等を徴収しています。

#### 【関稅の2つの目的】

1

財政關稅

税關による徴収額(消費稅等含む)は、  
國稅稅收の約14.1% (令和2年度で  
約9.1兆円)を占め、重要な徴稅機關  
です。

2

保護關稅

輸入品に關稅が課せられると、その分  
だけ輸入コストが増加しますので、國產  
品に対して競争力が低下し、關稅の國内  
産業保護という機能が生まれます。

#### 2021年の全国税關における關稅法違反事件の取締状況

##### 【押収量】

不正薬物	約1,138kg
銃砲	1丁
金地金	約27kg
知的財産侵害物品差止数量	約82万点

「世界一安全な国、日本」を築くため、使命を果たしていきます。



人流・物流の増加とともに、密輸手口も多様化・巧妙化し、効果的に  
厳格な検査を行うため、機器の導入が必要でした。この時代から麻  
薬探知犬、監視艇、X線検査装置が取り組みの現場で活躍しています。



コンテナ貨物から  
銃銃301丁を発見  
1984年(昭和59年)

車載型X線検査装置導入  
様々な場所において、貨物のX線検査  
が可能になりました。



輸入事後調査制度を導入  
輸入貨物の通關後における税關による税務調査であり、輸入者の事業所等を個別に訪問する等して、輸入貨物に係る納稅申告が適正に行われているのかを確認する制度です。申告納稅制度の下で適正な課税を確保することを目的として導入されました。  
※以前は賦課稅方式(税關が税額を決定する方式)

関稅に申告納稅制度を導入  
日本産業の成長と並行して貿易量も年々増加し、迅速通關を確保するため、申告納稅方式(納稅義務者が税額を計算する方法)が導入されました。

特惠關稅制度の導入  
1971年

通關業法施行  
1967年

關稅暫定措置法施行  
1966年

監所勤務から船内検査やパトロール中心の機動的な密輸取締に移行



旅具検査／羽田空港 1963年(昭和38年)



1953年、東京税關設置  
1953年、長崎税關設置



沖縄返還、沖縄地区税關設置

新東京国際空港(成田国際空港)開港

1978年

1979年

1981年

1985年

1988年



麻薬探知犬導入

HS条約(商品の名称及び  
分類についての統一システムに関する国際条約)に基づく商品分類を開始

国際貿易においては、国境を越えて様々な商品が取引されていますが、商品の種類によって適用される関税率が異なります。我が国においては、HS条約の国際的な商品分類ルールに基づいた関税率表(関税率の一覧表)により、あらゆる商品の関税率が定められています。関税率表は、通關を担当する税關職員にとって職務遂行上の必携アイテムです。

HSの手引き  
—国際統一商品分類—  
国際統一商品分類



### 麻薬探知犬について



麻薬の匂いがあることをハンドラーに知らせると、ハンドラーは麻薬探知犬と遊んであげます。匂いを見つけると遊んでもらえるので、麻薬探知犬は一生懸命匂いを探しています。